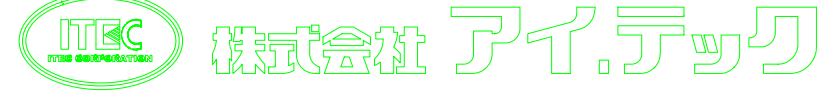


# アイ.テックSデッキ 合成スラブ設計・施工標準仕様書（共通仕様）

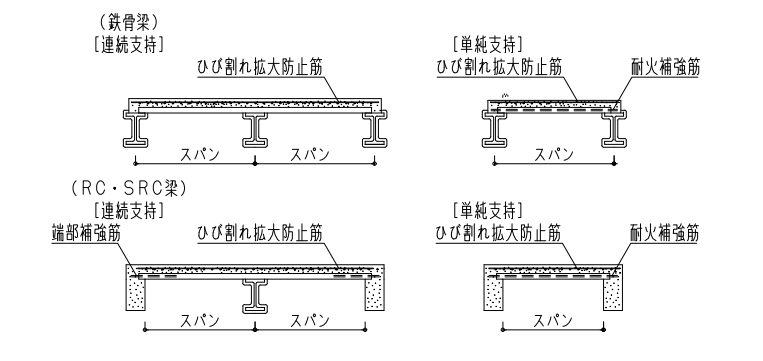
本仕様書に定めなき事項は、下記に準じるとする。  
 (独) 建築研究所監修 「デッキプレート床構造設計・施工標準-2018」  
 (社) 日本建築学会編 「各種合成構造設計指針・同解説」  
 合成スラブ工業会編 「合成スラブの設計・施工マニュアル」  
 アイ.テックSデッキ 「カタログ」「耐火認定書」



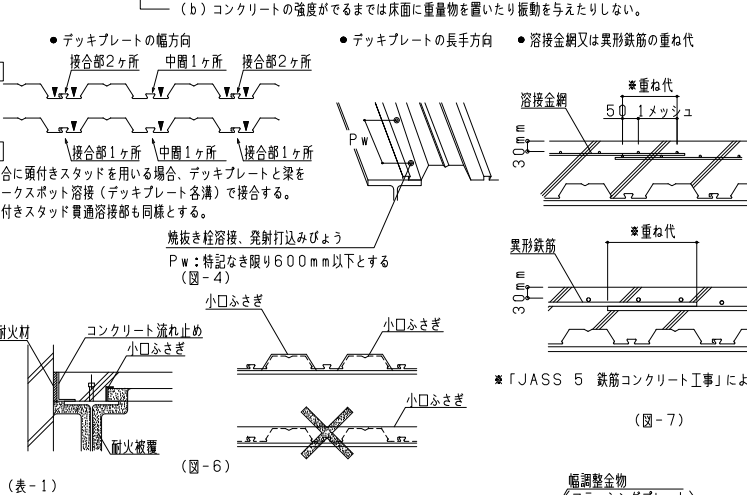
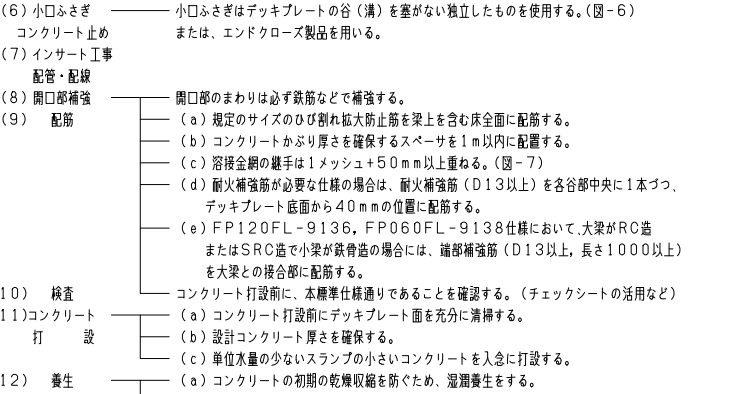
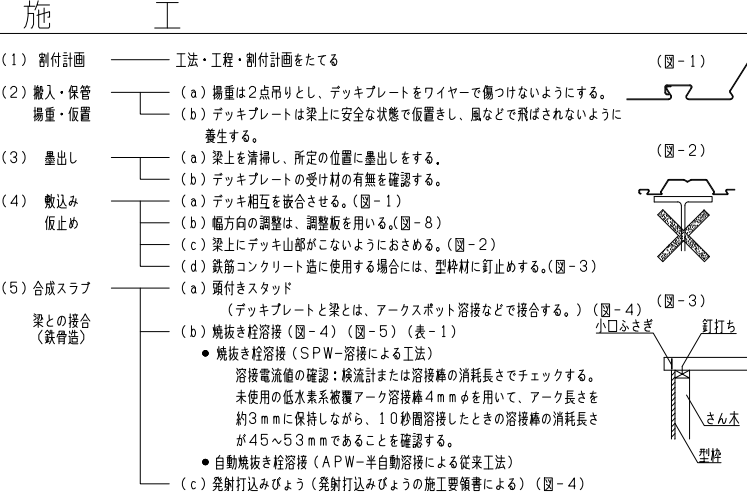
設計		●印を記入(コピーしてお使い下さい)	
材	合成スラブ用 デッキプレート	山高 板厚	□50 □75 □1.2 □1.6
		表面処理 種類	□黒皮 □カラー □Z12 □Z27 □その他( ) JIS G 3352に定めるSDP1T, SDP1Tにめっきを施したものを、SDP2, SDP2G
料	コンクリート	種類	□普通 □軽量1種 □軽量2種
		設計基準強度 厚さ (デッキ山)	□18N/mm <sup>2</sup> □21N/mm <sup>2</sup> □24N/mm <sup>2</sup> □その他( ) □70 □80 □85 □90 □95 □100 □その他( )
接	溶接金網	(JIS G 3551)	□φ6-150×150 □φ6-100×100
	異形鉄筋	(JIS G 3112) (JIS G 3117)	□CD6-150×150 □CD6-100×100 □D10-200×200 □その他( )
合	焼抜き栓溶接	□SPW : 標準溶接径 18mm以上 □PW, APW : 標準溶接径 25mm	*溶接位置等は特記による
	頭付スタッド 発射打込み その他	径、長さ、ピッチ等は構造図による。(梁とデッキとの接合はアークスポット溶接等とする) 別途打込み部の仕様による	
中固支保工		□有 □無	

## 耐火構造

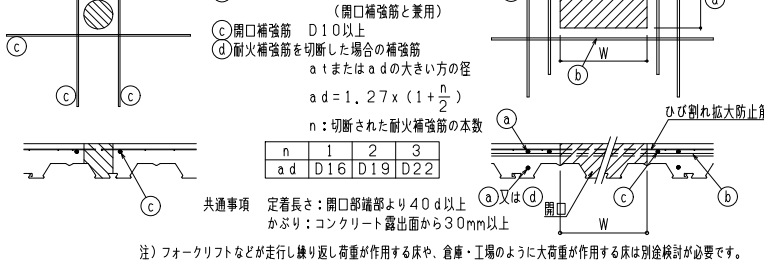
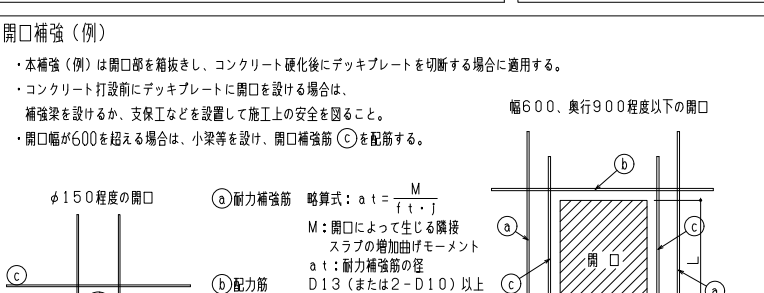
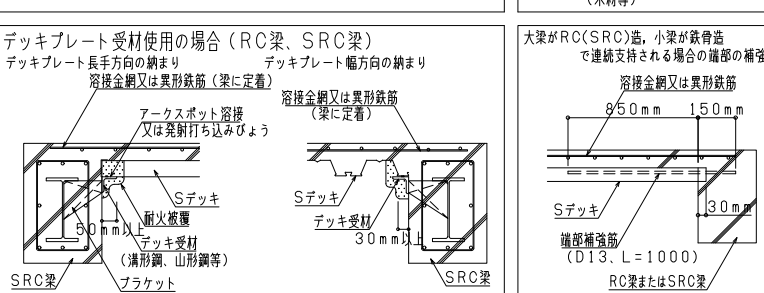
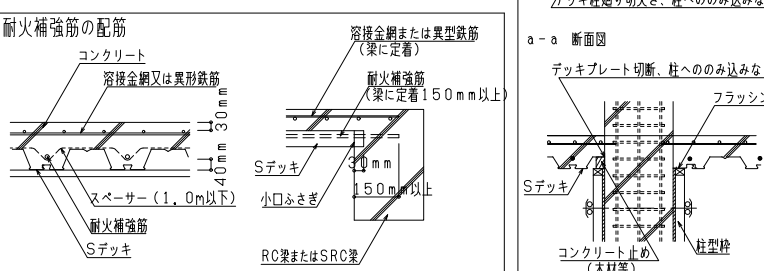
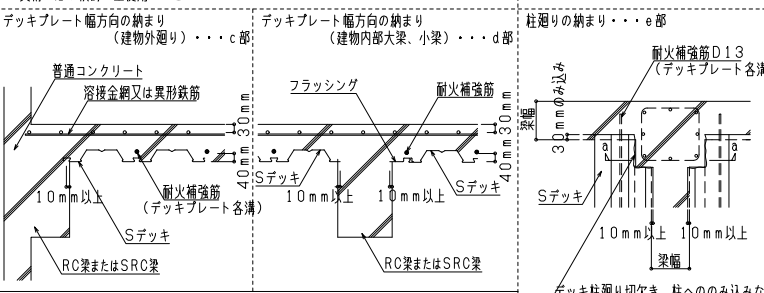
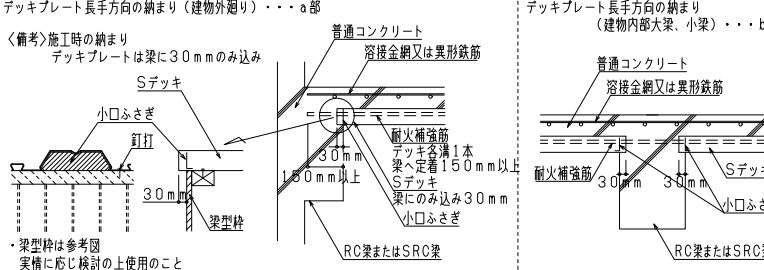
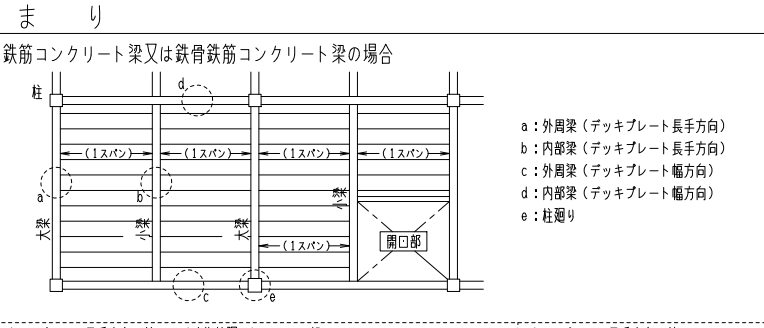
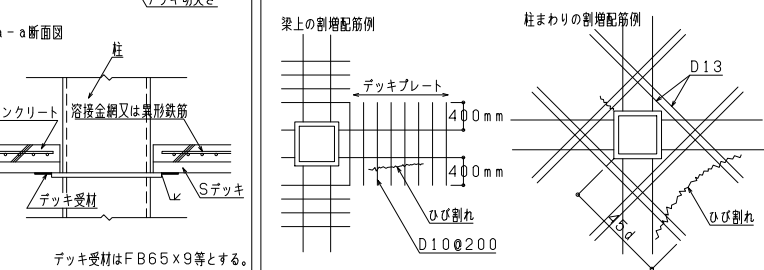
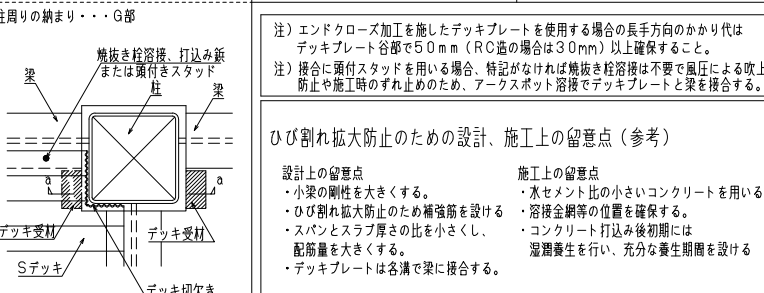
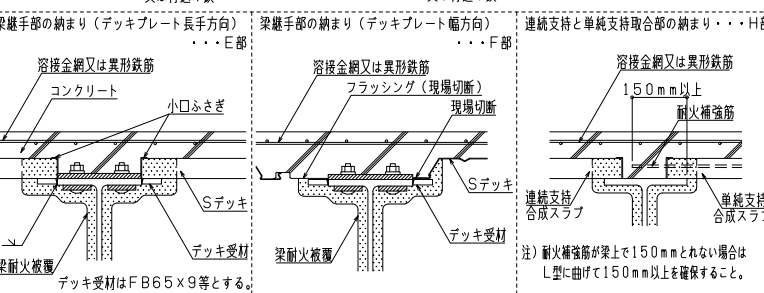
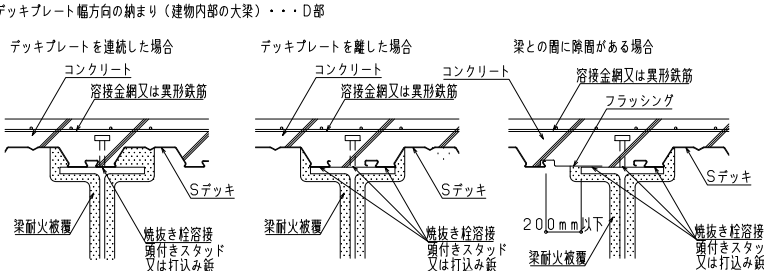
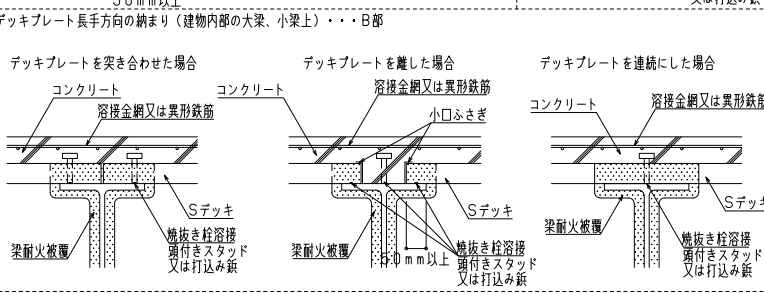
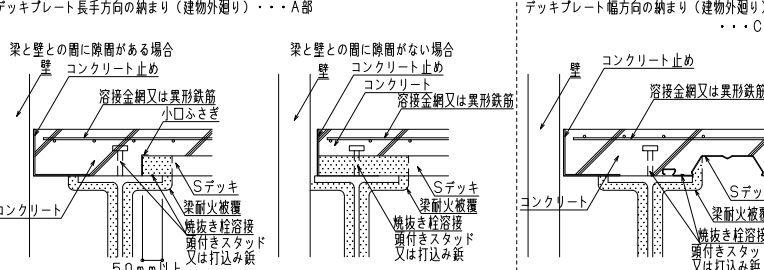
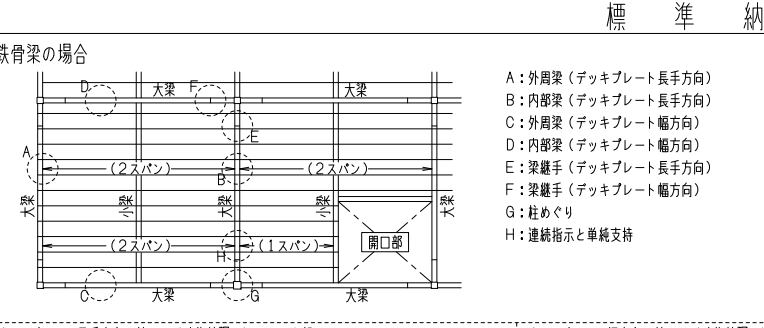
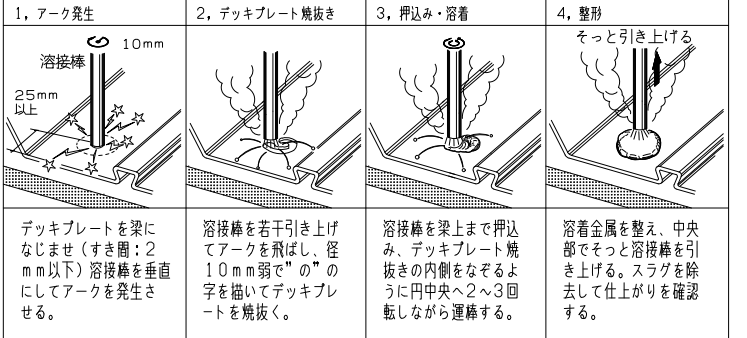
デッキプレート	耐火時間	名称および耐火認定番号	コンクリート 山厚さ (mm)	梁との 接合	スパン (m)	許容積載荷重算定式 (N/m <sup>2</sup> )	ひび割れ拡大防止筋	耐火 補強筋
S50	2時間	連続支持合成スラブ □FP120FL-9136	普通 (95以上)	打込 焼抜き栓溶接 発射打込み	2.7以下	5400×(2.7/L) <sup>2</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-100×100 D10-200×200	不要 D13
		単純支持合成スラブ □FP120FL-9137	普通 (85以上)	打込 焼抜き栓溶接 発射打込み	2.7以下	5400×(2.7/L) <sup>2</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-100×100 D10-200×200	不要 D13
	1時間	連続支持合成スラブ □FP060FL-9138	普通 軽量 (80以上)	打込 焼抜き栓溶接 発射打込み	3.0以下	5400×(2.7/L) <sup>2</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-150×150 D10-200×200	不要 D13
		単純支持合成スラブ □FP060FL-9139	普通 軽量 (80以上)	打込 焼抜き栓溶接 発射打込み	2.7以下	5400×(2.7/L) <sup>2</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-150×150 D10-200×200	不要 D13
S75	2時間	連続支持合成スラブ □FP120FL-9136	普通 (90以上)	打込 焼抜き栓溶接 発射打込み	3.4以下	5400×(3.4/L) <sup>2</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-100×100 D10-200×200	不要
		単純支持合成スラブ □FP120FL-9137	普通 (85以上)	打込 焼抜き栓溶接 発射打込み	3.4以下	5400×(3.4/L) <sup>2</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-100×100 D10-200×200	不要
	1時間	連続支持合成スラブ □FP060FL-9138	普通 軽量 (90以上)	打込 焼抜き栓溶接 発射打込み	3.4以下	5400×(3.4/L) <sup>2</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-100×100 D10-200×200	不要
		単純支持合成スラブ □FP060FL-9139	普通 軽量 (80以上)	打込 焼抜き栓溶接 発射打込み	3.4以下	5400×(3.4/L) <sup>2</sup> かつ9800N/m <sup>2</sup> 以下	φ6-150×150 D10-200×200	不要 D13



- \*1 : コンクリート厚さが表中の数値を超える場合、超えた分の荷重は積載荷重として算出する。  
 \*2 : 支持梁との接合を示す。中固支保の場合は耐火認定の仕様による。  
 \*3 : Lは図の支持スパン(m)を示す。  
 \*4 : ひび割れ拡大防止筋は表中の鉄筋量以上のものとし、鉄筋量はコンクリート厚さに対する鉄筋比0.2%以上とする。  
 \*5 : 耐火補強筋(D13以上)は各溝中央部に1本ずつ、デッキプレート底面から40mmの位置に全スパンにわたって配筋する。
- 1) : 許容積載荷重が常温時の計算によって決まる場合があるため、耐火仕様と常温時の算定結果の小さい方を許容積載荷重とする。  
 2) : 許容積載荷重とは建築基準法施行令第85条の積載荷重と床・天井などの仕上げ荷重を加えたものとする。  
 3) : 連続支持合成スラブの場合、デッキプレートは2スパン以上の連続的な小梁などによってほぼ等間隔に支持されたものとする。  
 4) : ひび割れ拡大防止筋は原則としてスラブ上端から30mmの幅を確保する。  
 5) : 梁に1.2または3層の耐火性能が要求される場合は、それらに応じた耐火被覆を梁に行う。  
 6) : スパンが大きい場合やコンクリートが厚い場合、コンクリート打設時に中固支保工が必要となるため、計算等により許容スパンを確認する。  
 7) : 耐火認定条件に適合しない場合は、取付ロックワール等の耐火認定に因る。



項目	溶接方法	焼抜き栓溶接 (SPW)
溶接工資格	JIS Z 3801 基本級以上 JIS Z 3841 基本級以上	
溶接機	低水素系溶接機φ4mm 交流アーク溶接機AW250A以上 エンジン溶接機230A以上	
電源容量	溶接機1台につき18KVA以上	
デッキ板厚 (mm)	1.2~1.6	
梁フランジ厚 (mm)	6以上	
溶接電流 (A)	190~230A(標準210A)	
溶接電圧 (V)		
溶接時間 (秒)	8秒程度(標準210A)	
余盛り径 (mm)	18mm以上	



注) エンドクローズ加工を施したデッキプレートを使用する場合の長手方向のかり代はデッキプレート谷部で50mm (RC造の場合は30mm)以上確保すること。  
 注) 接合に頭付スタッドを用いる場合、特記がなければ焼抜き栓溶接は不要で風圧による吹上防止や施工時のずれ止めのため、アークスポット溶接でデッキプレートと梁を接合する。

ひび割れ拡大防止のための設計・施工上の留意点(参考)

設計上の留意点  
 ・小梁の剛性を大きくする。  
 ・ひび割れ拡大防止のための補強筋を設ける  
 ・スパンとスラブ厚さの比を小さくし、配筋量を大きくする。  
 ・デッキプレートは各溝で梁に接合する。

施工上の留意点  
 ・水セメント比の小さいコンクリートを用いる。  
 ・溶接金網等の位置を確保する。  
 ・コンクリート打込み後初期には湿潤養生を行い、充分な養生期間を設ける

梁上の割増配筋例  
 柱まわりの割増配筋例

デッキ受材はFB65×9等とする。

